



活動ガイドライン

はじめに

『特定非営利活動法人 災害救援レスキューアシスト』とは・・・
災害弱者と呼ばれる要配慮者（高齢者、障がい者など）を中心とした災害時の
救援活動を行っています。
災害発生後は、24～72時間以内での現地到着及び活動開始を目標にしています。
どのような支援が必要なのか迅速に判断し復興へのアシストをします。

活動のキホン7か条

1. 三密（密着・密接・密集）回避



2. 基本対策の徹底

手洗い、消毒、ソーシャルディスタンス、咳エチケットの徹底。

3. 換気

建物内でやむを得ず人が集まる場合は窓開けなどの換気を徹底。

4. 体調管理

活動2週間前からの体調管理（発熱や咳、倦怠感など）

活動前夜、当日朝に体調確認と検温の徹底。

37度以上の熱、倦怠感、味覚障害などの症状があれば参加不可。



5. ボランティア保険への加入

6. 宿泊

県外からのボランティアは2日以上活動を基本。宿泊は車中泊または十分な距離を保ち、寝具は持参。食事は各自用意。

7. 住民さんとの接触制限

県外からのボランティアの場合、上記に加え、到着後3日間は住人さんとは触れ合わない。万が一の会話も3m以上の距離保つ。

活動当日【出発前】



キホン7か条の確認

7か条を今一度確認しましょう。



トイレを済ます

現地トイレは借りられません。



屋外で行おう

受付や朝礼は屋外で行う。



マスク着用

必要な装備（マスクなど）は各自用意。

活動当日【移動中：車内マナー】



窓の開放



大声での会話はNG



咳エチケット

活動当日【活動中】

依頼主への配慮

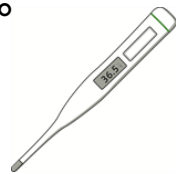
・住民さんの不安を先に伝える

予め参加者の体調確認と検温を実施している旨伝えよう。
お茶などの差し入れは極力断るか、持ち帰り各自いただく。

・顔見知りの固定メンバーのみ接触

住人に接触する人は固定メンバーのみ「横並び」で会話。

用意しないで下さい



ボランティアが徹底すること

・マスク着用

訪問時はマスクやフェイスシールドの着用徹底。

・熱中症対策、体調管理

マスクは暑いですね。水分補給を忘れずに。
活動中の体調不良になった時は、速やかに報告。

・接触制限

基本は住民さんと接触不可。接触が必要な場合
顔見知りの固定メンバーを呼ぶ。

(特に社協ボラセンからのボランティア、県外ボランティアは
到着後3日間は住人さんとの接触を避ける)

・こまめな手指の消毒

・最少人数での対応

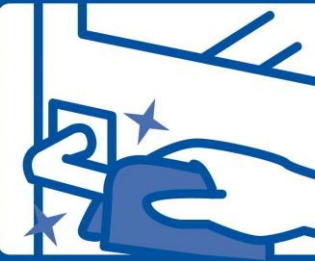
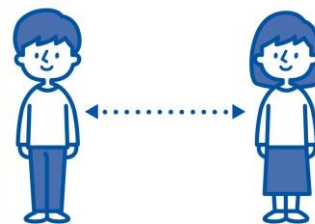
状況確認など屋内に入る場合は最少人数で入室。

・食事 食事は各自用意。2m以上離れて食べる。

・トイレを借りない

住人さん宅では基本トイレを借りない。

やむを得ない場合アルコールなどで必ず掃除、消毒
(消毒箇所：便座、床、ノズル、ドアノブなど)



活動当日【活動後】

- ・手洗い、うがい、消毒

拠点に戻ったら必ず手洗い・うがい・消毒の徹底

- ・建物内への入室禁止

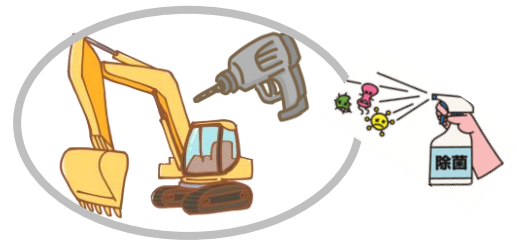
不用意に建物内に入室しない。

- ・みんなのものはみんな管理

共同で使う機械、車両のハンドル部分など、毎日消毒

- ・終礼後は速やかに解散

資機材の片づけ、終礼後は速やかに解散



手洗い、消毒
うがい

帰宅後

- ・感染拡大予防

症状が出ていない場合でも、2週間程度は人との濃厚接触を避ける。

- ・感染の疑いがある場合

発熱などの体調に異変が生じた場合、速やかに医療機関で受診しましょう。

感染症が明らかになった場合は、**速やかに！**

主催団体へ連絡する。



- ・追跡調査

感染の連絡があった場合は、主催団体はボランティア登録票を活用し、感染経路についての追跡調査を行う。ボランティアも調査に協力する。